

## ヒグマによる人身事故発生状況

2023年度 2例目	
項目	内 容
発生日時	令和5年（2023年）5月14日 5時00頃から9時00分頃までの間
発生場所及び付近状況	住 所 幌加内町朱鞠内湖ナマコ沢西岸奥部
	付近の状況 <ul style="list-style-type: none"> <li>・砂および泥の堆積した湖端の水面岸（被害者が襲撃された可能性の高い場所</li> <li>・ナマコ沢西岸奥部はシラカンバ、ミズナラの広葉樹にトドマツが混ざる森林</li> <li>・林床は背丈160cmほどのササ</li> </ul>
被害者情報	居住市町村 興部町在住
	年齢・性別 被害の状況 54歳 男性 死亡
	鳴り物の携帯 爆竹（使用した痕跡なし） それ以外は不明
発生状況	被害者の行動 渡し船により発生場所より200m程南岸で下船し、釣りを始めたと思われる。
	発生時間帯 5時00頃から9時00分頃までの間 晴れ、気温0.9℃、北北東の風・風速0.9m/s、降水量0.0mm（アメダスデータによる）
加害個体の特徴	年齢・性別 オス、満3歳
	痕跡 加害個体を捕獲し各種資料を採取
	逃避行動等 被害者を攻撃後、翌15日の捕獲まで事故発生現場に留まる
対応状況	加害個体への対応 ハンターにより加害個体を捕獲（5月15日15時31分頃）
	住民への対応 <ul style="list-style-type: none"> <li>・看板、注意喚起用のぼり旗を設置</li> <li>・警察によるパトロールの実施</li> <li>・有線放送による注意喚起</li> <li>・キャンプ場への立ち入り、利用を規制</li> <li>・渡し船による釣りの中止</li> </ul>
考察	発生要因 被害者が亡くなっているため発生要因を詳しく特定することは難しい。若い個体が何らかの原因により釣りをしていた被害者に近寄り襲撃し、最終的に食害に至ったと考えられる。
	対策 今後、積極的に人間に近寄ってくる個体を生み出さないために、キャンプ場での生ゴミなどの管理の徹底、釣り場においては釣った魚を陸上に放置させないための注意喚起が重要。問題行動を示す個体に関する監視を強化し、発見確認した場合は、立入規制後に捕殺を検討するなど、適切に対応する。

その他	<ul style="list-style-type: none"><li>• クマスプレーの所持は不明</li><li>• 被害者のショルダーバッグ内に保管されていた食料は荒らされた形跡なし</li></ul>
-----	--

## ヒグマによる人身事故発生状況

2023年度 3例目		
項目	内容	
発生日時	令和5年(2023年)6月28日 16時40分頃	
発生場所及び 付近状況	住 所 羅臼町知床岬 羅臼町側台地上	
	付近の状況 ・事故地点に至る草原部はササやハンゴンソウ等が繁茂する腰から胸丈ほどの見通しの悪い草やぶ ・事故地点である林縁部は最大でも腰丈ほどのミミコウモリが優先する環境	
被害者情報	居住市町村	
	年齢・性別 被害の状況	43歳 男性 左腕部2箇所に切創及び刺創、左頬部1箇所に擦過傷
	鳴り物の携帯	シカ捕獲作業中のため、不所持
発生状況	被害者の行動	・シカ捕獲作業のためゆっくり前進していたところ、12m程度離れた位置からヒグマが咆哮をあげ突進してきた。 ・クマスプレーのバックルを外しスプレーに手をかけるも間に合わず、ヒグマの右手が左頬及び左腕に接触し転倒した。 ・ヒグマは一旦後退した後、再び咆哮をあげながら突進してきたため顔面に向けスプレーを噴射。
	発生時間帯	16時40分頃 曇り、南風・風速2~3m
加害個体 の特徴	行動形態	・オス成獣サイズ
	痕跡	サクラの実の食痕
	逃避行動等	被害者がスプレー噴射後、後退し姿が見えなくなった
対応状況	加害個体への対応	なし
	住民への対応	・SNS、HPを用いた注意喚起
考察	発生要因	・事故地点近くに食痕があり、餌に執着したヒグマが接近者に対し排他的な行動をとったと考えられる
	対策	・見通しの悪い場所では音出しを徹底する
その他	・声や音出しなどのヒグマとの遭遇回避行動は、捕獲作業における安全管理の観点から最も優先されるべきではあるが、エソシカ捕獲の観点からは捕獲機会の損失を招くため、作業現場における捕獲努力と安全管理のジレンマの存在があったことも否定できない。	

## ヒグマによる人身事故発生状況

2023年度 4例目		
項目	内容	
発生日時	令和5年(2023年)10月13日 16時40分頃	
発生場所及び 付近状況	住 所	釧路市阿寒町布伏内 シュンクシタカラ川沿いの林道
	付近の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>川と併走する幅3mほどの林道</li> <li>川の上流側から見て林道右側が高さ10mほどの崖</li> <li>林道左側に川が流れ、河原までは落差10mほどの崖</li> </ul>
被害者情報	居住市町村	釧路市在住
	年齢・性別 被害の状況	52歳 男性 右上腕骨の開放骨折、右鎖骨の骨折、左後頭部の咬傷、顔面右側・右腕の咬傷及び裂傷、背中数カ所の刺創
	鳴り物の携帯	クマ鈴を携帯のほか、ホイッスルを吹き、声も出していた。
発生状況	被害者の行動	<ul style="list-style-type: none"> <li>マウンテンバイクを押しながら単独で林道を歩行中に親子とみられるヒグマと遭遇</li> <li>親とみられるヒグマに襲撃され、クマスプレーを使用したがいずれの間、攻撃された</li> </ul>
	発生時間帯	16時00分頃 晴れ、気温16.2℃、南東の風・風速1.1m/s、降水量0.0mm(中徹別のアメダスデータ)
加害個体 の特徴	行動形態	<ul style="list-style-type: none"> <li>加害個体は、進行方向の林道上に子グマと共にいた</li> <li>母グマの襲撃前、子グマは被害者に向けて走ってきた</li> </ul>
	痕跡	被害者のマウンテンバイクに残った体毛を採取
	逃避行動等	加害個体は被害者を攻撃後、その場を歩いて去った
対応状況	加害個体への 対応	なし
	住民への対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>林道入口等に注意喚起看板を設置</li> <li>地元狩猟者によるパトロールの実施</li> <li>防災無線やSNS、HPを用いた注意喚起</li> <li>児童の登下校時の送迎、集団登下校及びクマ鈴の配布</li> </ul>
考察	発生要因	<ul style="list-style-type: none"> <li>好奇心で被害者に近づいた子グマを守るため、母グマである加害個体が攻撃をしたと考えられる</li> </ul>
	対策	被害者は十分な対策を実施していたが、追加の対策として <ul style="list-style-type: none"> <li>ヒグマの活動が活発になる日没前の林道通行を避ける</li> <li>ヒグマが人の存在を察知しやすく柔軟な対応が可能な複数人で入林する</li> </ul>

その他	<ul style="list-style-type: none"><li>被害者の証言によると、加害個体は興奮状態にあった。そのためにクマスプレーの即効性が低減したと考えられるが、加害個体は噴射液を避ける行動をとっていることから、クマスプレーがヒグマの攻撃を軽減させその場から立ち去らせる効果はあったと言える。</li></ul>
-----	--